

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-11663

(P2017-11663A)

(43) 公開日 平成29年1月12日(2017.1.12)

(51) Int.Cl.

H03F 9/00 (2006.01)

F 1

H03F 9/00

テーマコード(参考)

(21) 出願番号
(22) 出願日特願2015-151298 (P2015-151298)
平成27年6月22日 (2015. 6. 22)

(71) 出願人 507144805

本田 慶治

東京都青梅市野上町3丁目9番1号 霞台
第2住宅16棟102号室

(72) 発明者 本田 慶治

東京都青梅市野上町3-9-1 霞台第2
住宅16-102

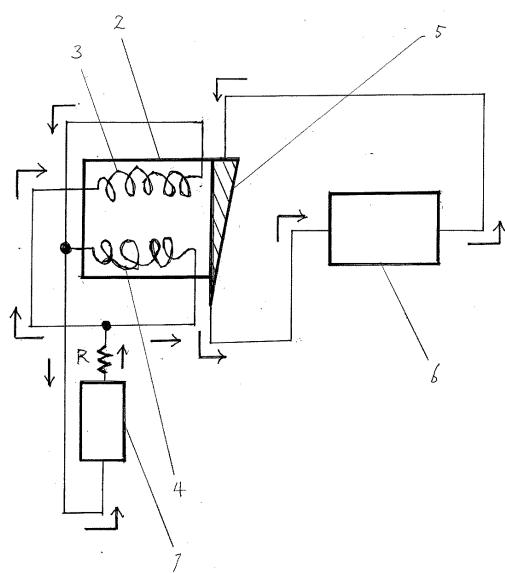
(54) 【発明の名称】充電体を用いた增幅方法

(57) 【要約】

【課題】本発明は、充電体に充電された電荷の増幅方法を提供する。

【解決手段】充電された電荷に鉄心を接着した出力に抵抗、正電流、逆電流のコイルに供給し、磁場の変化で補充電荷した出力に抵抗をつないで増幅出力する。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

A C、D C電源に抵抗をつなぎ充電体に内蔵されるコイルに供給し磁場の変化で起電器を充電し電気信号に変換する先端の尖った鉄心で電荷密度を上げると放電する出力の充電体を用いた增幅方法。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0 0 0 1】**

本発明は、A C、D C電源を使用し、充電体に電流方向のちがうコイルを内蔵し起電器を充電した後、電気信号に変換する先端の尖った鉄心で電荷密度を上げて増幅出力する増幅方法に関するものである。 10

【背景技術】**【0 0 0 2】**

従来、増幅する場合は、トランスを利用したり、F E Tトランジスタを利用して増幅することが知られている。

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0 0 0 3】**

そのために次のような問題があった。

従来の増幅する方法は、トランスを利用したり、F E Tトランジスタを利用したものがあつた。 20

本発明は、このような課題に鑑みてなされたものであつて、トランス、F E Tトランジスタを利用することなく、増幅する増幅方法を提供することを目的としている。

本発明は、以上の問題点を解決しようとするものである。

【課題を解決するための手段】**【0 0 0 4】**

前記した課題を解決するために本発明は、A C、D C電源に抵抗をつなぎ充電体に電流方向がちがうコイルを内蔵し、起電器を充電し電荷を電気信号に変換する先端の尖った鉄心で電荷密度を上げて放電する出力の増幅方法を特徴とする。

【発明の効果】**【0 0 0 5】**

本発明によれば、トランス、F E Tトランジスタを利用することなく、充電体を用いて増幅することができる。

【図面の簡単な説明】**【0 0 0 6】****【図 1】本発明の一実施例を示す構成図である。****【発明を実施するための形態】****【0 0 0 7】**

以下、本発明の実施の形態について説明する。

図1は、本発明の一実施例を示す構成図である。

図1において、1はA C、D C電源である。Rは抵抗である。電源(1)の省費電力をおさえる。2は充電体である。起電器を充電する。3はコイルである。抵抗(R)の出力で磁場を発生する。4はコイルである。抵抗(R)の出力で磁場を発生し起電器を充電する。 40

5は先端の尖った鉄心である。起電器を電気信号に変換した出力で増幅出力する。

以上説明したよに、本発明によればコンパクトにしF E Tトランジスタの代用として使用する。

【符号の説明】**【0 0 0 8】**

- R 抵抗
2 充電体（硫黄、琥珀）
3 コイル
4 コイル
5 鉄心
6 負荷

【図 1】

